

保健体育

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
保健体育	体育	2	2年次・全	必履修
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
現代高等保健体育 （大修館）		ACTIVE SPORTS		1年次必履修科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするともに、健康・安全を確保する態度を身に付けている。

2 学習計画と観点別評価項目

学年	学期	学習内容（単元・項目）	月	学習のねらい	評価の観点	
	1 学 期	1	1 体づくり運動 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 ・新体力テスト	4月	・自分や仲間の体や心の状態に気付く。	1 2 3
2 集団行動			5月	・体の調子を整え、仲間との交流を豊かにする。		
			6月	・自己の体力と運動能力を知り、体力を高めていく工夫ができるようにする。	1 2 3	
			7月	・運動を適切に行うための、集団行動の意義や行い方を理解する。	1 2 3	
3 種目選択による実技 ・ソフトボール			4 体育理論	7月	・自己の興味や適正に応じて種目を選択する。	1
					・ソフトボールでは基本的な技術（打撃・守備）を身につけると共に集団の技能や個人技能を發揮して攻撃と防御を繰り返し勝敗を競う楽しさや喜びを味わう。	
2 学 期			2	5 体づくり運動	9月	・各種の運動に関連する体力及び健康に関連する体力の向上を目指す。
	6 種目選択による実技 ・サッカー	10月		・自己の興味や適正に応じて種目を選択する。	1 2 3	
				・サッカーのルールと基本技術を習得する。		
	・バスケットボール	11月		・個人戦術とグループ戦術を理解し実践する。	1	
				・バスケットボールのルールと基本技術を習得する。		
	・卓球 or テニス	12月		・個人戦術とグループ戦術を理解し実践する。	1	
				・卓球でフォア、バック等基本的な技術とル		

				<ul style="list-style-type: none"> ールを身に付け、試合ができるようになる。 ・バドミントンでは基礎基本的技術やルールを体験しながら身に付ける。 ・基本動作の習得を図る。 ・スポーツの意義や必要性を理解し状況に応じたスポーツとの関わり方や豊かなスポーツライフについて学習する。 	
3 学 期		8 中・長距離 8分間走・12分間走 9 体づくり運動 10 体育理論	1月 2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・長い距離を走りきることができるようになる。 ・完走の喜びを感じることができるようになる。 ・自分のペース知り、持久力と自己の記録向上を目指す。 ・身体の様々な部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう。 ・仲間の体や心の状態に気付き、仲間との交流を深める。 ・スポーツの意義や必要性を理解し状況に応じたスポーツとの関わり方や豊かなスポーツライフについて学習する。 	1 2 3 1 2 3 1
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能 ○球技の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する力を身に付けている。 ア ゴール型 ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をする技能を身に付けている。 イ ネット型 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をする技能を身に付けている。 ウ ベースボール型 安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をする技能を身に付けている。 ○体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。 ○陸上では技術の名称や行い方、運動観察の方法などについて理解している。	2. 思考・判断・表現 ○攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。 ○生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案している。 ○運動に取り組む場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案している。 ○長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。	3. 主体的に学習に取り組む態度 ○球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保する態度を身に付けている。 ○体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。 ○仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ○陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。	
	規 準				

令和5年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

	<p>○体育理論では、スポーツが、人類の歴史とともに世界各地で日常の遊びや生活などから生まれてきたこと、近代になって、スポーツは娯楽から競技に変化し、一般の人びとに広がっていったこと、現代では、競技だけでなく、広く身体表現や身体活動を含む概念としてスポーツが用いられるようになってきており、その理念が時代に応じて多様に変容してきていることについて、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>○スポーツの歴史的発展と多様な変化や現代のスポーツの意義や価値について、事実や理念を整理して話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	<p>○スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、自主的に取り組もうとしている。</p>
手段	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ・個人記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習や試合中の行動の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度の観察 ・出席状況
	<p>単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技種目ごとに実技テストを実施する。出席・態度・意欲を平常点とする。 	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実技を中心としているため出席を重視する。 ・速やかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにする。 ・自分から進んで取り組み、自分のできる精一杯を表現してみよう。また、自分の課題に挑戦しよう。 ・仲間を大切に、ルールを守ろう。 		